

現在、本学大学院応用人間科学研究科で臨床心理士を志望する院生を指導しています。また30年以上にわたって病院の精神科でカウンセラーをしています。主に思春期や青年期の問題に取り組んできましたが、とくに時間とエネルギーを注いできたのは、『不登校』『ひきこもり』の問題です。私の心理臨床活動のキーワードは『自分が自分であって大丈夫』という自己肯定感です。

1. 専門演習の目標

今日、秋葉原の事件が象徴するように若者の「生きづらさ」を背景に惨劇が起こっています。その背景には現代日本社会の構造上の問題や病理があると考えられます。と同時に、若者たち自身の内面に埋め込まれた『地雷』（焦り、見捨てられる不安、自己否定にとらわれた思いなど）の存在を無視することはできません。そういうことを見据えながら、「生きづらさ」を解決していくための方途を共に探っていくことを目標にしたいと思います。

2. 専門演習で扱う課題と内容

私は臨床心理士として病院でカウンセリングを行いながら、種々の心の問題と向き合い、「心の問題」を抱える子どもや若者がどうすれば元気になっていけるか苦心してきました。その仕事は調子の悪くなった車をなおすような仕事ではありません。彼ら自身が自分で自分をなおしていくのです。私は彼ら自身のなかにある生命の働き（自然治癒力、自己回復力）が活性化するように手伝うことを通して少援助できるだけです。でも彼ら自身の中にある「自己否定」とらわれた思いがその邪魔をします。私は長年その「自己否定」の思いとむきあって悪戦苦闘してきました。そのなかから生まれたのが私のいう『自分が自分であって大丈夫』という自己肯定感です。演習ではさまざまな『心の問題』をとりあげ、その苦しみから心を解放していくためには、どのような方法や実践が必要かを『フリースペース』や『親の会』各種援助機関の現場から学ぶことをも含めて一緒に考えてゆきたいと思います。

3. 授業の進め方・内容

3回生前期：問題意識を耕すための学習（文献・現場・自身の経験）。3回生後期：前期に耕した問題意識によってグループをつくり、自分達で調べ、研究。4回生前期：3回生で深めた問題意識から卒業研究のテーマを決め、各自で研究。4回生後期：卒業研究を仕上げる。

4. 必要とする知識

特になし

5. 関連する分野・科目・知識

カウンセリング論、心理臨床論、家族病理、社会病理、発達心理、などの知識があれば望ましい。

6. テキスト・参考書・機材（受講生が標準的に持つもの）

授業のなかで逐次紹介する。

7. 独自に付加する選考方法

なし

8. 受講生に望むこと

他人の話をしっかり耳を傾けて聴けること。自己の成長のために『勇気ボタン』をちょいと押せること。